



感染症に気をつけよう!

2015年【4月号】

横浜市内の感染症



流行状況



感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	やや流行	横ばい	かぜに似ていますが、腎炎等の合併症もみられ、治療には抗生物質が必要になります。早目に受診しましょう。【3月号】	
ばいどく 梅毒	散発	増加	全国的に増加していて、国がホームページで注意を呼びかけています。市内でも男女とも増加傾向で注意が必要です。	

今、気をつけたい感染症



E型肝炎

- E型肝炎ウイルスの感染が原因です。国内での感染の多くは、ブタやイノシシなどの肉を、生あるいは加熱不十分なままで食べたことが原因です。
- 特に、ブタは高い確率でE型肝炎ウイルスに感染していることが分かっています。市内でもブタの生レバーを食べて感染した例が起きています。
- 主な症状は発熱・悪心・腹痛や肝臓の異常で、潜伏期間は6週間程度と長いです。
- 妊婦が感染すると非常に重い症状になりやすいとの報告があります。また、高齢者ほど重症化しやすいとされています。命に関わるケースもあります。



生肉は危険!



しっかり加熱!



- このウイルスは熱によって死ぬので、肉を中心部までよく加熱すれば、感染を防ぐことが可能です。
- 腸管出血性大腸菌など他の食中毒菌も熱に弱いので、肉を安心して食べるには、調理する時の加熱がとても重要です。

横浜市衛生研究所

感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

